

第 5 回札幌市行政評価委員会

会 議 録

日 時：平成 27 年 12 月 24 日（木）午前 9 時 30 分開会
場 所：札幌市役所本庁舎 18 階第 4 常任委員会会議室

１．開　　会

○吉見委員長　それでは、予定の時間より若干早いですが、第５回札幌市行政評価委員会を始めたいと思います。

石井副委員長は、少々おくれるというお話を伺っております。

事実上、きょうが最後の委員会でございます。ご参加ありがとうございます。

２．議　　事

○吉見委員長　それでは、次第に従いまして、議事に入ります。

本日は、外部評価報告書について、１件だけとなっております。

まず、お手元の資料をごらんいただきますと、外部評価報告書というホチキスどめになったものが１冊、こういう形でできております。本物はもう少しちゃんとした表紙をつけたものになりますが、こういう中身ということです。まだ、未完成の部分がありますが、表紙をめくっていただきまして、一番最初の表紙の裏の「報告にあたって」は私が書くことになっております。きょうまでに送ればよかったのですが、今はまだＵＳＢメモリーに入っております、きょうの夕方には事務局に送れると思いますので、それをここに流し込んでもらうことになります。

本体は、その次の目次からでございます。目次は、前回まででおわかりいただいているかと思いますが、第１章の概要と第２章の結果ということで、大きく２章となっておりますので、これごとに見ていきたいと思います。

まず、一つ目の「報告にあたって」ですが、これは後で書きます。

それでは、第１章の「外部評価の概要」について、事務局から説明をお願いいたします。

○推進担当係長　第１章の「外部評価の概要」についてご説明させていただきます。

まず、１ページ目をごらんください。

一つ目は、「評価の目的と対象」についてでございます。

今年度は、平成２６年度の事業・施策を対象に、外部の専門的な立場から皆様のご意見をいただくことで、評価の透明性、客観性を確保するとともに、業務改善の取組につなげること、また、施策・事業等に関する評価を一体的に行い、市の施策・事業の効率性・有効性のある取組につながることを目的に実施したとしております。

二つ目は、「評価対象施策・事業の選定」についてでございます。

今年度につきましては、内部評価で指摘のあった事業を含んだ子育て関係の１施策、経済関係２施策の合計３施策３０事業を選定していただきました。その選定の視点と、次の【表１】で各施策の事業数や選定理由を記載しております。

三つ目は、これまでの「活動の経過」を時系列に記載しております。

第１章は以上でございます。

○吉見委員長　第１章は、この２ページだけですが、この点で何かございますでしょうか。

【表１】に選定理由がございますが、これも含めてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○吉見委員長 それでは、第1章はこれで確認したことにいたしまして、第2章に進みたいと思います。

本体の部分ですが、これは大きく二つの施策がございますので、前回と同様に施策ごとに見ていきたいと思います。

一つ目は、子育て関連です。

まず、前段階で総括コメントが3ページにあります。それから、4ページから子育ての指摘が始まりますが、4ページから5ページに概要が新たに入っています。前は、子育てではひな形として出ていたと思うのですが、経済では文章はなく、7ページ以降の指摘事項についてのみごらんいただき、意見をいただいたところでございました。

それでは、特に前回から変更した部分などもありますので、その部分を中心にして事務局から説明をお願いいたします。

○推進担当係長 総括コメントから進めさせていただきます。

こちらにつきましては、前回の委員会でご意見いただいた点を踏まえまして、下線部分を修正しております。大きなところでは、「（2）市民への情報提供について」の2段落目を追記しているところでございます。「（3）事業所管部局の連携強化について」につきましても、最後から2行目の文の修正をしているところでございますので、ご確認いただければと思います。

次の4ページからが施策ごとの評価結果となっております。

1番目が「施策1-1-1 子育てと仕事などの両立支援」、「内部評価指摘事業（子育て関連）」でございます。

「（1）施策の概要」ですが、札幌市の中期的な実施計画である新まちづくり計画にどのように位置づけられていたかを示すために、施策情報として、施策目標、重点課題、施策の考え、達成目標として設定しております個別指標、対象事業の予算額と決算額を記載しております。その下に、評価対象事業の概要もあわせて載せています。

次のページは、「（2）ヒアリングの結果」でございます。ヒアリングの論点整理の中でどのようなことが問題か、疑問か、課題かというようなことをご発言いただいた中からまとめたものでございます。

こちらは、幾つかの大きな項目に分類して記載しております。

一つ目は、「市関係部局及び各種団体との連携」についてでございます。経済局や教育委員会など市役所内の部局間の連携、民間事業者との連携について記載しております。

二つ目は、「市民ニーズの的確な把握」についてでございます。例えば、児童会館とミニ児童会館の満足度にどのような違いがあるのか、利用者アンケートの分析を十分に行うことというような意見でございます。

三つ目は、「情報提供の充実」でございます。市民への情報提供のため、広報効果が高いインターネットを活用した広報とか検索しやすいホームページの工夫についてのご意見

を載せています。

四つ目は、「未納保育料の収納率向上の取組」について掲載しております。

次のページからは、「（３）指摘事項」についてのご説明でございます。

こちらについては、前回の委員会でご議論いただいた修正箇所についてご説明いたします。

最初に、９ページの指摘ナンバー４です。こちらは、２段落目の下線部分について、児童会館とミニ児童会館の満足度がどのように違うのかということがわかるアンケートにするべきだという趣旨で修正しております。

次に、１２ページの指摘ナンバー１０でございます。こちらの下線部は、特に子育て世代はインターネットが身近であることを追記しております。

最後は、１３ページの指摘ナンバー１２でございます。こちらは、費用対効果を念頭に置いて広報効果が高いというような文言を追記しております。

子育ての施策については以上でございます。

○吉見委員長 それ以外のところは、事実上、修正していないということですね。

○推進担当係長 若干、て、に、を、はを直しております。

○吉見委員長 前回以降、委員から大きな修正等のご提案は特になかったと事務局から聞いておりますので、下線部を中心ということになりましょうか。

さらには、４ページから６ページはデータが中心になりますが、ヒアリングの結果には我々がヒアリングした部分について総括的に書き込んでありますので、ここは変えたほうがいいというものがあればご指摘いただきたいと思います。

もし何かございましたらご意見いただきたいのですが、いかがでしょうか。

○上岡委員 細かいことかもしれませんが、５ページ目の下線部の直していただいた利用者アンケートの部分です。

「利用者アンケートは、児童会館とミニ児童会館で共通であるため、満足度にどのような違いがあるのか、その分析が十分になされていないのではないかと感じられた」とありますが、前回の議論の中でも共通なことが問題ではないという話が出ていたと思います。ですから、例えば、「児童会館とミニ児童会館の差異に着目して作成されていないこともあり」というような文言にしたほうが、より提言内容につながるのかなと感じました。

○吉見委員長 これに対応して、提言はどういうふうになりましたか。

○推進担当係長 ９ページの指摘４の２段落目の下線部です。

○吉見委員長 ここは、これでよろしいですか。

○上岡委員 指摘内容自体は、別々に把握する必要があるということについては同じだと思うのです。ただ、前回は、アンケートが共通であっても項目としてミニ児童会館、児童会館それぞれのよさに着目したような項目をつくることによって、それぞれの分析ができるのではないかと指摘だったと思うのです。「共通であるため」となってしまうと、児童会館向けのアンケート、ミニ児童会館向けのアンケートをつくる必要があるという誤

解を招きやすいのかなと思ったのです。書いてあることが間違いというわけではなく、単によりわかりやすくするためには少し違う表現もあり得るのかなと考えました。

○吉見委員長 質問項目が違うわけですから、児童会館用、ミニ児童会館用と1枚ずつつくるといことなのか、1枚の紙の中で児童会館の方はここに、ミニ児童会館の方はこちらに進んでくださいと書くか、具体的にはいろいろあり得るわけで、そこは我々が決めることではなくて、向こうで考えていただければいいのだと思います。要するに、それぞれのニーズを把握できるような形でアンケートをとってください、全く同じ内容でとってその結果を比べられますかということですね。おっしゃるように、こちらで形態を決めて、こうしろと言っているわけではありません。

○石井副委員長 要するに、設備等の違いに配慮したアンケートになっていないことが問題だということですね。

○上岡委員 そうですね。

○石井副委員長 そういうふうに書いていないから誤解を招くというのだったら、そういう言い方をすればいいと思います。

○吉見委員長 ヒアリングの結果のところは、指摘事項そのものではなく、我々がヒアリングをしたときのある種のメモですから、適宜、直してもよろしいです。

先ほどお話がありましたが、ここはどんなふうにしましょうか。

○上岡委員 先ほど申し上げたのは、「共通であるため」というところを「差異に着目して作成されていないこともあり」としたらいかがかという案です。

○吉見委員長 それでは、「児童会館とミニ児童会館では、その差異に着目して作成されていないため」というふうにしましょうか。そして、「満足度にどのような違いがあるのか」につなげるような感じでお願いいたします。

○推進担当係長 わかりました。

○吉見委員長 ほかはいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○吉見委員長 もしありましたら、また後でご意見をいただきたいと思います。

それでは、経済に進みたいと思います。

経済は14ページからです。

事務局から説明をお願いいたします。

○推進担当係長 では、14ページ、「施策3-1-1 札幌の経済を支える企業の基盤強化と創業・人材育成の促進」、「施策3-2-1 札幌市経済の成長を牽引する重点分野の振興」についてご説明いたします。

「(1) 施策の概要」については、先ほどと同様のデータをそれぞれ掲載しております。

次の15ページに、「(2) ヒアリングの結果」を掲載しております。

項目といたしましては、一つ目は、「事業目的の明確化」についてでございます。経済活動として成り立つように女性起業家をふやしていくことを大前提に支援していく仕組み

をつくっていくべきというようなことを記載しております。

二つ目は、「募集手法の見直し」についてでございます。パンフレットの記入やデザイン戦略の普及についての項目でございます。

三つ目は、「成果指標や目標設定の見直し」についてでございます。こちらも、現在の成果についての分析は、まだ不十分ではないかというようなことを書いております。

四つ目は、「市関係部局の連携が必要」ということございまして、札幌市の他の所管部局との横断的な連携の必要性について記載しております。

次に、17ページ以降の「(3) 指摘事項」でございます。

変更点についてご説明いたします。

まず、前回、ご議論いただいた後に大きな変更がありましたので、そちらからご説明させていただきます。

19ページの指摘5、6、7をごらんください。

これまでは、「フード特区関連大型設備投資利子助成金」の項目についてご指摘をいただいておりますが、このたび、経済局から、この事業に関しては平成28年度から新規の助成金の募集を行わないという報告がございました。そこで、経済局ではほかに助成金事業を実施しておりますので、指摘の趣旨をそのまま生かす形で助成金全般の指摘としております。こちらのご確認をお願いいたします。

続きまして、前回のご議論を踏まえた修正といたしましては、20ページの指摘項目ナンバー8の2段落目の下線部でございます。こちらは、修正前は「非常にシンプルな世界」としていた記載を「直接的にあとづけできるものである」というふうに表現を修正しております。

次に、22ページの指摘10の3段落目の下線部でございます。業態が融合していることについて、例えばコンテンツ産業とIT産業ではというような形に修正し、前回よりもわかりやすい記載にしております。

私からは以上でございます。

○吉見委員長 それでは、経済について、同様に修正部分を中心として何かご指摘があればいただきたいと思います。

特に、今、説明がございましたけれども、19ページから20ページにかけての助成金関係は、既に書き込んでありますが、平成28年度から新規募集がないということです。この助成金そのものについて指摘をしても、もうありませんということになりますので、それ以外の表現は変えずに助成金一般論のような形にして指摘事項を書いています。したがって、下線部のところに「行わないとのことであったが」と書き込んであることがおわかりいただけるかと思います。そういうふうに組みかえて、この項目自体をなくすことはしませんでした。

特に前回ご指摘があったところで修正などが行われているかと思いますが、その点を中心に何かございましたらお願いします。

○吉田委員 前回指摘したところではなく、16ページの上から6行目ですが、「成果指標として設定したからには、それは一応できるものとして本来立てたはず」という文は、お気持ちはわかりますけれども、日本語としてはちょっとおかしいかなと思います。

○吉見委員長 「達成できるものとされたはず」ということですね。

○吉田委員 そういうふうにしたほうがいいと思います。

○吉見委員長 今のは、「それは達成できるものとされたはず」でよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○吉見委員長 この部分は、多分、ヒアリングの結果として我々がコメントしたものがあって、そのときに我々が話した表現が議事録からそのまま入っているのだと思います。ここは、適宜、表現を修正していただいて構いません。

ほかにございませんでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○吉見委員長 今ここで確認いただいたものが最終稿となって、あとはのりづけして表紙をつけて、表紙裏に私の「報告にあたって」という文章を流し込んだら終わりになります。

最終確認でございますが、よろしゅうございましょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○吉見委員長 全体にわたりまして何かありましたら、ご意見、ご指摘いただきたいと思います。

それでは、私からですが、今年度の行政評価委員会については、項目を大きく二つ立てました。今までは三つ扱っていたことが割と多かったのですが、二つにした理由の一つは、内部評価について我々として検証したということがありました。ただ、この報告書自体ではそこには何も触れておらず、そういうことをやったと表現した箇所がないと思うので、私自身の最初のコメントで少し入れようかなと思いますが、よろしいでしょうか。

○改革推進部長 1ページ目の「外部評価の概要」の「評価の目的と対象」とか「評価対象施策・事業の選定」で触れる手も一つあるかなと思います。

○吉見委員長 そこで触れられるのであれば、触れていただいたほうがいいかもしれないですね。

つまり、外部評価と言ったときに、それをどういう位置にするかなと思って、この表現でもいいかなと思ったところもあります。我々がやっていることは外部評価でしょうから、かつて内部評価が行われたけれども、ただ、その進行が滞っているものを中心に外部評価の立場からそれらを見たということで、見た項目は残っていますよね。今回、保育料の収納率向上など、二つ選んだところに関連してということがありましたが、その前段階としては、ほかのものも含めて一覧表をいただいて検討したという経緯もありました。ですから、その一覧表を載せるかどうかは別として、ここに入れて問題や違和感がないのであれば何か入れていただきましょうか。

○推進担当係長 わかりました。

○吉見委員長 そこに入れていただくなら、私も、簡単にとどめますが、表紙をめくったところに少し書きます。

○改革推進部長 まさに、2 番の「評価対象施策・事業の選定」の肝の部分だと思います。本来、入れておかなければならないものを委員長からご指摘いただきまして、非常に恥ずかしいです。大変申しわけありません。

○吉見委員長 わかりました。

2 ページに余白がありますので、その分ぐらいを使って 1 ページに入れていただきたいと思います。

それは、私が後で事務局からいただいて確認するということで、お任せいただいてもよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○吉見委員長 では、そこは書き込んでいただいて、私が後で確認することにいたしたいと思います。

○石川委員 今の部分ですが、11 ページには「内部評価指摘事項」という項目があって、ぱっと見て、そういえばこの項目は内部評価から来たという流れの中で読んでいました。今のご指摘で、根本の考え方も表現してもらおうというお話をもらいましたので、ちょっと整理させていただきたいと思います。

結局、何点かあったけれども、指摘に至ったのはここのこの項目だけだったということと、気になったのは、補充の説明なのに「内部評価指摘事項」と書いているから、前段でどう説明するのか。うまくいけばつながるのかもしれないけれども、多分、今の話の流れのままでこれだけを見ると、突然「内部評価指摘事項」という項目が出てくるから、ここは浮くのだろうなと思います。そこを直すのであれば、ここの関連も少し整理していただきたいと思います。

確認ですが、いろいろな項目があったけれども、これに絞ったという話でしたよね。

○吉見委員長 これは事務局から言ってもらったほうがいいのかもしれませんが、ほかの項目も見たのですが、今回ピックアップした二つの施策に関連するものを特に扱ってこうというふうに委員会の中で確認しながら進めたと理解しています。

そういうことでよろしいですね。

○推進担当係長 はい。

○石川委員 そこを直したところと、8 の指摘が違和感なくつながるように組んでもらえればと思います。

○吉見委員長 内部評価について来年度以降どうするかということは、まだ決めておりませんので、これは来年度の行政評価委員会の中でお考えいただければいいのかなと思います。例えば、今年度と同様に、内部評価で指摘をしたけれども、進まずに残っている項目を参考にしながら施策を選ぶ方法もありますし、あるいは、先に外部評価の施策を選んでおいて内部評価から拾うという方法もあるかもしれません。

また、今、石川委員がご指摘になりかけたのかと思いますが、選んだ施策とは別に、特におくれている内部評価項目を幾つかピックアップして、それについて外部評価の立場から別途評価を行う方法もあると思います。ただ、今年度の委員会でその方法をとらなかったのは、ヒアリング等々の問題があったかと思いますが。すなわち、選んだ内部評価が1項目だけでも該当部局の皆さんがヒアリングにいらっしゃいます。ですから、たくさん選定しますと、どうしてもヒアリングにかなりの時間を要してしまいます。今年度は初めて内部評価をもとにして始めたこともありましたが、これはこういう形でやってみようということだったかと思いますが。

恐らく、来年度も内部評価に係る進行ぐあいなどの報告は事務局からあるかと思うので、そういう報告などを勘案していただきながら、来年度はどうするかということについて考えていただければと思います。場合によっては、三つ施策を選んでやるという方法もあるかもしれません。それはいろいろあると思います。

それから、ご存じのように、去年までは市民評価にもかかわっていましたので、三つと言いながら、そのうち二つは市民評価の意見もかなりいただきながらやったこともありましたが、ただ、本年度は、外部評価二つプラス内部評価の振り返りという構成になっていたということです。

では、石川委員、表現等はよろしいですか。

○石川委員 はい。

○吉見委員長 ありがとうございます。

○石井副委員長 今のお話で、現段階として、内部評価を取り上げることに关してはトライアルみたいな位置づけで、来年度も含めて、どうするかについてもっと考えていかなければいけないということになるのだったら、むしろ、そこまでの話を1ページ、2ページに書いておいていただいたほうが良いと思います。外部評価が内部評価を点検するというのは北海道でもやっていますから、やり方としては不自然ではなく、一歩踏み込んだということだと思います。ですから、せっかくなので、その部分はもう一歩踏み込んで、どこで切るかは少し時間をかけてやっていくと、今年度はそういう段階であることをちゃんと入れておいたほうが来年度につながるような気がします。

○吉見委員長 先ほどの私の「報告にあたって」のところにも入れるようにしますが、事務局でも1ページ、2ページのところの表現を工夫していただけますか。

○推進担当係長 わかりました。

○吉見委員長 来年度も残る委員がやりやすいようにお願いします。

○石川委員 11ページのナンバー8の指摘対象ですが、何で「(項目)」と書いてあるのですか。

○推進担当係長 「～事業費」となっているものはそれぞれ予算立てされているものですが、この「収納率向上の取組」については、そのようなものではありませんので事業費ではなく項目としております。

○吉見委員長 何とか費とか何とか金という名称ではないということですね。

○推進担当係長 5 ページにもありますが、これは、事業名ではなくて、あくまで項目ですという意味です。

○吉見委員長 だから、金額が入っていないということですね。

よく見るとこれだけですね。

○推進担当係長 はい。

○吉見委員長 ある意味では事務的な区分のようですね。

○改革推進部長 多分、5 ページを見ていただくと違和感は薄れるのかなと思います。確かに、11 ページだけ見ると、何でこれだけ「(項目)」となっているのかなと思うかもしれません。

○石川委員 括弧がついていますし、しかも後ろのほうでは「(内部評価指摘事業)」となっているので、括弧と本文の並びが紛らわしいのです。

○推進課長 脚注を入れましょうか。

○改革推進部長 最初から順番に見ていただくと違和感は薄れると思うのですが、確かにここだけ見ると、どうしてここだけこういう整理がされているのかなと思う方はいらっしゃるかもしれないですね。それを薄めるのであれば、ここに脚注を入れて、どうして「(項目)」や「(内部評価指摘事業)」と入っているのか、改めて言う手はあります。

○吉見委員長 表現を薄めなくてもいいと思います。つまり、市役所の中の方だとわかると思うので、指摘された側はわかると思います。

ただ、市民に対してホームページで開示して見せるという意義があるのであれば、注釈があったほうがわかりやすいと思います。そういう側面もありますよね。

○改革推進部長 もちろんです。市民の方に知っていただくことは、大きな柱の一つです。

○吉見委員長 それでは、市民に読んでいただくという観点からすると、そこは読みやすい工夫が必要ですね。

○推進担当係長 わかりました。工夫します。

○吉見委員長 注釈などを打って、用語の意味を説明するといいかもしれませんね。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○吉見委員長 それでは、少し宿題が残っておりますが、それ以外の部分については、これで確定する方向で考えたいと思います。

ありがとうございました。

3. その他

○吉見委員長 本日の議題は、基本的にこれだけでございます。

あとは、「その他」となりますが、こちらは事務局にお任せいたします。

何か確認等はございますでしょうか。

○推進担当係長 では、「その他」です。

まず、今回の行政評価委員会をもちまして、本年度の委員会は終了となります。

委員の皆様、大変お疲れさまでございました。どうもありがとうございます。

なお、市長への報告書の手交でございますけれども、1月26日火曜日午前10時15分からを予定しております。委員の皆様方におかれましては、ご参集のほどをよろしくお願いいたします。

ここで、最終回に当たりまして、事務局を代表して、改革推進部長の元木から、一言、ご挨拶させていただきます。

○改革推進部長 改めまして、改革推進部長の元木でございます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中を、それぞれのご専門の知見から、本日の5回目の委員会まで、非常にご熱心に、しかも、1回1回の委員会を見ましたらほぼ2時間という本当に長時間にわたって中身の濃い議論をしていただきました。改めて、お礼を申し上げさせていただきたいと思います。

このようにスムーズに委員会を開催することが可能となりましたのは、もちろん委員の皆様方の的確なご発言、また、吉見委員長のスムーズな議事進行によるものだと思っています。

このたびのご指摘の「総括コメント」は、事業目的の明確化、市民へ情報提供する際のご指摘、各所管部局の連携の三つでございますが、実は、どの施策に当たっても毎回のようにご指摘をいただいております。それぞれの施策でご指摘をいただいた際に、私どもから見ても少しずつ改善しているところではございますが、やはり施策が変わったら同じようにご指摘いただいているというのは、各所管と私ども改革推進部のリーダーシップのとり方に問題があるのかなと、改めて反省させていただいているところでございます。

特に事業の目的、目標の明確化に関しては、平成28年度から政策マーケティング・リサーチという取組を一つやろうと考えております。これは、大阪府で、当時の橋下知事が非常にご熱心にやられたことですが、よく民間企業におかれましては、市場のマーケティング・リサーチを特にやっていると思いますが、基本的にはあれと同様でございます。いわゆる市民ニーズから外れた施策を打たないようにするには、テクニカルな面を含めてマニュアル化して、それを各所管にちゃんと理解していただいて、各施策を打つ際にはニーズから外れた施策をしないようにと、非常に遅まきながらそういう取組を進めようと思っております。

この取組を進めるに当たっては、大阪府にもいろいろ話を聞いたのですが、大阪府がまとめられたマニュアル等がございまして、どうぞまねしてくださいというお話もいただいております。ですから、平成28年度以降は、そういうことについて系統的、システマティックに進められるのかなと思っておりますので、請うご期待をいただければと思います。

なお、吉見委員長におかれましては、3期6年、委員長としては5年の長きにわたりまして重責を担っていただきました。ところが、まことに残念ながら、今年度でご退任でご

ざいます。先ほどもお話しさせていただきましたが、非常に有意義なご指摘とともに、円滑な議事進行に当たっていただきまして、まことにありがとうございました。改めてお礼を申し上げます。

また、ほかの委員の皆様におかれましては、来年度以降も引き続きお引き受けいただきまして、私どものほうにご指摘をいただければと考えております。それらも含めまして、我々事務局一同、大変感謝をしてございます。改めて、まことにありがとうございました。
○推進担当係長 事務局からは以上でございます。

○吉見委員長 ありがとうございます。

それでは、これが最後ですから、私からも、一言、ご挨拶を申し上げます。

二つございます。

一つは、本年度の行政評価委員会の終わりに当たってということでございます。まだ最終完成にはなっておりませんが、皆様にご協力いただきまして報告書をここまでまとめることができましたことに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

そして、今、部長からご紹介いただきましたが、私は、本年度でこの委員会の委員を退任することとなりました。

そもそも、お引き受けするときには、果たしてこれができるのかなと思っていました。基礎自治体である札幌市は、市民に一番近い位置にある自治体ですが、それだけに市民の生活に密着したさまざまな施策を行っていますので、よく市民の意見、市民目線と言いますけれども、この委員会でもそういう目線で見えていくことが必要であると考えまして、私自身、過去に行った市民ヒアリングなども含めて、そういう目線に立つことができたことは非常に得がたい経験でありました。また、委員の皆様からのご意見も、私にとってはなるほどなと思うことがたくさんあり、私の勉強させてもらったことに非常につながりまして、そのことにも大変感謝申し上げます。

加えまして、この間、それぞれの年度において担当された事務局の皆さんには大変お世話になりました。職員の皆さんは転任されてかわってこられることもあります。私はよくわかりませんが、市役所の中であって、行政評価ないしは改革推進、行政改革に従事されておられる職員の皆さんは、頑張って大きく変えようという旗を振りながら、ほかからは冷たい目で見られることがないのかと思ったりしておりました。あるいは、我々は、好き勝手なことと言うと語弊があるかもしれませんが、市役所から見ると外部の厳しい目線で意見を言うこともあります。そこをこういう形で報告書にまとめたり、あるいは、こんなふう書いてくれというようなことを我々が言って、それを文字にまとめる作業をしてこられました。もちろん最終的にこの報告書の責任は我々委員会にありますけれども、ただ、市役所の中では、何でこんなことを書かせたのか、書いたのかと言われていないのかと、そういうことを頭の片隅に置きながらも、我々としては外部の目線や市民の立場として言わなければいけないことは言おうということでやってきました。

そういう意味で、事務局として働かれたことには大変ご苦労もあったのではないかと拝

察します。そういうことも含めて、私から、事務局の皆さんに改めて御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

また、委員の皆様も含めて御礼申し上げて、私のご挨拶としたいと思います。本当にありがとうございました。

4. 閉 会

○吉見委員長 以上で、今年度第5回、そして、今年度の行政評価委員会を終了いたします。

ありがとうございました。

以 上